

大地の鼓動が確かな春の訪れを伝える今日の良き日に、日頃から本校の教育活動に御理解と温かい御支援をいただいている御来賓の方々、保護者の皆様をお迎えして、広島県立広島叡智学園中学校第2回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより教職員にとりましても、このうえない大きな喜びであります。

とりわけ本日は、御来賓として、広島県議会議員 森川 家忠様、大崎上島町長 高田 幸典様、大崎上島町商工会事務局長 森下 秀月様、そして、本校 PTA 会長 比枝 圭介様には、日頃の公務等で大変お疲れのところ御臨席を賜り、卒業生の門出に華を添えていただきました。御来賓の皆様には、壇上からではございますが、心から感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。先ほどの卒業証書授与において、担任からの呼名に、凜とした返事で応え、自信を持って登壇する姿に、皆さんの確かな成長の証を感じました。皆さんが手にした卒業証書には、仲間とともに過ごした様々な思いが刻み込まれており、かけがえのない3年間の重みを感じていることと思います。

本校は、平成31年4月に「世界のどこにいてもよりよい未来を創造できるリーダーを育成する」ことを Vision に掲げ、全寮制の併設型中高一貫教育校として開校した学校であります。その翌年の令和2年4月に入学した皆さんは、2期生として、先輩が築いた足跡を着実に継承し、IB プログラムに磨きをかけ、創造的な思考力や目的に向かってやり抜く力、そして、自信を養い、本当に逞しく成長してくれました。

そして、何よりも、親元を離れて初めての寮における共同生活を通して、自律した生活を行うことができる力を身につけるとともに、お互いのことをしっかりと思いやり、全ての生徒が安心・安全な生活を送ることができる文化の形成に、大きく貢献してくれました。

4月からは、みなさんの高校生活が始まります。本校の高等学校は、新たに国籍の異なる留学生等を迎えて、多様性あふれる学習環境や生活環境に囲まれることになります。こうした環境の中で2期生として、真のラーニング・コミュニティの実現に向けて、力強く挑戦し続ける姿を心から期待しています。

ここで、卒業する皆さんに、私が尊敬しているある方が言われた言葉を送ります。

心大きく生きられよ  
まずは焦らず偏らず  
心広く 大きくなることである

人は誰にも欠点はあります。私自身も、今日まで多くの人に何度も守られ、包まれ、許されてきました。それ故に、卒業生の皆さんにも、周りの人に対して、家族の方に対して、そして、これから出会う多くの人に対しても、心広く大きく生きてほしいと思います。皆さんが、9年間の義務教育を終え、高等学校に進学するにあたり、志を高く持ち、その達成のために、心大きく全力で努力し、果敢に挑戦してくれることを心から期待しています。

保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。これまでの3年間、本校の教育活動に御理解と御協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。この学校の敷地内で24時間お預かりしてきたが故に、中学校入学当初から、並々ならぬご心配をいただいたことと推察いたします。子供たちは、本日御覧いただいたとおり、この3年間、様々な困難を乗り越え、立派に成長してくれました。4月からは新たに高校生活がスタートしますが、引き続き子供たちを支えていただきますとともに、本校の教育活動へのより一層の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日は東日本大震災の発生から、ちょうど12年となる日です。そのため、卒業のお祝いの日ではありますが、正門横の掲揚台の国旗等は半旗とさせていただき、哀悼の意を表することとしました。さらに、世界情勢に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻から1年が経過し、これまで平和に暮らしていた人々の貴重な命が奪われ、大切な家屋が失われ、安全な生活が脅かされています。こうした国際社会の現実の中でも、社会の持続的な平和と発展に向けて、地域や世界の「よりよい未来」の創造を目指して学んできた皆さんが、世界へと続く扉を自らの手で開き、この大崎上島から世界へと、グローバルリーダーとして一層逞しく成長してくれることを心より祈念し、式辞いたします。

令和5年3月11日

広島県立広島叡智学園中学校長

福 嶋 一 彦